

ネクターン病害虫防除暦

散布日	散布時期	散布薬剤（水 100 ㍓当り）	収穫前 使用時期	使用 回数 (以内)	散布量 (㍓)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
特別散布（発芽前） カイガラムシ類の発生園は、スプレーオイルの 50 倍(発芽前、－)を散布する。（合剤散布 5～6 日前に散布する）							
月 日	3 月下旬 (発芽前)	(水 9 0 ㍓) ①展着剤 石灰硫黄合剤 1 0 m㍓ 1 0 ㍓	発芽前	—	3 0 0	(縮葉病) カイガラムシ類 ハダニ類	* 石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールにかからないようにする。 ①石灰硫黄合剤に代えて、トレノックスフロアブル 500 倍（30 日前、5 回）でもよい。 ②せん孔細菌病発生園は、開花前にキンセット水和剤 80 の 1,000 倍（開花直前まで、5 回）を特別散布する。
月 日	開花始め (1～2 輪咲)	②IC ボルドー412 3. 3 kg	—	—	3 5 0	せん孔細菌病	①せん孔細菌病の発生園は、展着剤にKKステッカー3,000 倍（固着性展着剤）を使用する。尚、KKステッカーは必ず最後に調合する。 * KKステッカーに代えて、アピオンEの 1,000 倍でもよい。 ②展葉後の散布は薬害が著しいので散布時期を厳守する。 ③収穫中の作物への飛散に十分注意する。
月 日	5 月上旬 落花後	③展着剤 フェニックスフロアブル トレノックスフロアブル マイコシールド 1 0 m㍓ 2 5 m㍓ 2 0 0 m㍓ 6 6 g	前日 3 0 日前 2 8 日前	2 回 5 回 5 回	3 5 0	せん孔細菌病 黒星病、縮葉病 灰星病 モモハモグリガ ハマキムシ類 シンクイムシ類 コスカシバ	①アブラムシ類の発生園は、ウララ DF2000 倍（7 日前、2 回）を加用する。
月 日	5 月中旬 (前回から 1 0 日後)	④展着剤 トレノックスフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 マイコシールド 1 0 m㍓ 2 0 0 m㍓ 2 5 g 6 6 g	3 0 日前 3 日前 2 8 日前	5 回 3 回 5 回	4 0 0	せん孔細菌病 黒星病、灰星病 アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類	* せん孔細菌病の伝染源となる春型枝病斑は、こまめに切除する。（5～6 月） ①(カイガラムシ類)の発生園は、アプロードフロアブルの 1000 倍(7 日前、3 回)を加用する。
月 日	5 月下旬 (前回から 1 0 日後)	⑤展着剤 ハチハチフロアブル トレノックスフロアブル マイコシールド 1 0 m㍓ 5 0 m㍓ 2 0 0 m㍓ 6 6 g	前日 3 0 日前 2 8 日前	2 回 5 回 5 回	5 0 0	せん孔細菌病 黒星病、灰星病 (うどんこ病) シンクイムシ類 モモハモグリガ アブラムシ類	①もも混植園で、(うどんこ病)の発生が心配される場合は、フルーツセイバーの 1500 倍(前日、3 回)を加用する。 ②(カイガラムシ類)の発生園は、ハチハチフロアブルに代えてコルト顆粒水和剤の 2000 倍(前日、3 回)を散布する。
月 日	6 月上旬 (前回から 1 0 日後)	⑥展着剤 デランフロアブル アルバリン顆粒水溶剤 マイコシールド(* 注意事項) 2 0 m㍓ 1 0 0 m㍓ 5 0 g 6 6 g	1 4 日前 前日 2 8 日前	2 回 3 回 5 回	5 0 0	せん孔細菌病 灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 モモハモグリガ アブラムシ類 カメムシ類	* せん孔細菌病の発生が心配されない場合は、マイコシールドを散布しなくてもよい。 ①アルバリン顆粒水溶剤に代えて、ダントツ水溶剤の 4000 倍(3 日前、3 回)でもよい。
特別散布 6 月中旬（前回から 7～1 0 日後） せん孔細菌病の発生園はマイコシールドの 1500 倍(28 日前、5 回)を散布する。収穫前規制に注意							
月 日	6 月中下旬	⑦展着剤 デランフロアブル ダーズバン DF スターナ水和剤(* 注意事項) 2 0 m㍓ 1 0 0 m㍓ 3 3 g 1 0 0 g	1 4 日前 1 4 日前 7 日前	2 回 2 回 3 回	6 0 0	せん孔細菌病 灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 ハマキムシ類 シンクイムシ類	* せん孔細菌病の発生が心配されない場合は、スターナ水和剤を散布しなくてもよい。 ①カメムシ類の発生園は、アルバリン顆粒水溶剤 2000 倍（前日、3 回）を特別散布する。
月 日	7 月上旬	⑧展着剤 ナリアWDG イカズチWD G 2 0 m㍓ 5 0 g 6 6 g	前日 前日	2 回 2 回	6 0 0	灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 モモハモグリガ カメムシ類	①ナリア WDG はぶどう（ピオーネ、サニールージュ）、西洋梨ル・レクチェに薬害を生じる恐れがあるので、隣接園は注意する。 ②ハダニ類の発生園は、カネマイトフロアブル 1000 倍（3 日前、1 回）を加用する。
月 日	7 月中下旬	⑨展着剤 オンリーワンフロアブル サムコルフロアブル 10 2 0 m㍓ 5 0 m㍓ 2 0 m㍓	前日 3 日前	3 回 2 回	6 0 0	灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	①ハダニ類の発生園が心配される場合は、ダニサラバフロアブル 1000 倍（前日、2 回）を加用する。 ②シンクイムシ類の発生が心配される場合は、サムコルフロアブル 10 に代えてバリアード顆粒水和剤 2000 倍(3 日前、2 回)を散布する。
月 日	8 月上旬	⑩展着剤 ベルクートフロアブル アーデントフロアブル 2 0 m㍓ 5 0 m㍓ 5 0 m㍓	前日 前日	2 回 3 回	6 0 0	灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 カメムシ類 ハダニ類 (モモハモグリガ)	①モモハモグリガの発生園は、ノーモルト乳剤 2000 倍（前日、2 回）を加用する。 ②アーデントフロアブルに代えて、アーデント水和剤 1000 倍(前日、3 回)でもよい。
月 日	8 月中下旬	⑪展着剤 オーシャインフロアブル ディアナWD G 2 0 m㍓ 5 0 m㍓ 1 0 g	前日 前日	3 回 2 回	6 0 0	灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	①晩生種は灰星病予防のため必ず散布する。 ②モモハモグリガの発生園はサムコルフロアブル 10 の 5000 倍(3 日前、2 回)を加用する。（ただし、収穫前規制に注意する）
月 日	9 月上旬	⑫展着剤 ベルクートフロアブル 2 0 m㍓ 5 0 m㍓	前日	2 回	6 0 0	灰星病 ホモプシス腐敗病 黒星病	
せん孔細菌病多発園は、次年度の菌密度を下げるため 1 0 日間隔で 3 回の散布を徹底する。また、薬剤の予防効果を高めるため風雨前の散布とする。							
月 日	収穫終了後 3 回散布 9 月上中旬～ 1 0 月上旬	⑬ IC ボルドー412 ダイアジノン水和剤 34 KKステッカー (固着性展着剤) 3. 3 kg 1 0 0 g 3 3 m㍓	— 2 1 日前	— 3 回	6 0 0	せん孔細菌病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 クワコナカイガラ ムシ若齢幼虫	①KKステッカーは必ず最後に調合する。 ②KKステッカーに代えて、アピオンEの 1,000 倍でもよい。 ③収穫中の作物への飛散に充分注意する。 ④I C ボルドー412 に代えて、コサイド 3000 の 2000 倍(収穫後～落葉まで)でもよい（薬害が心配される場合は、クレフノンを加用する） ⑤コスカシバの発生園はガットキラー乳剤 100 倍（休眠期、3 回）または、トラサイド A 乳剤 200 倍（幼虫食入期、3 回）を樹幹部及び主枝に十分散布する。（ガットキラー乳剤とトラサイド A 乳剤の使用回数は合わせて 3 回とする）

* 安全・安心な農産物生産のために使用基準は厳守しましょう